

# HOMAS 日本語版 ニュースレター

Hokkaido Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会

No. 71

平成 26 年(2014 年)3 月 15 日発行  
北海道・マサチューセッツ協会  
会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003  
札幌市中央区北 3 条西 7 丁目  
道庁別館 12 階  
TEL011-231-3392 FAX011-231-3666  
発行人 中垣 正史  
E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち(26)

## 近代日本の女性医師第 1 号・・・荻野吟子の生涯と業績

—北海道開拓期の瀬棚町で医院を開業、日曜学校も創設して伝道活動—

### ■ まえがき

北海道の近代化は、明治政府の開拓使設置(1869 年・明治 2 年)により本格的な歴史を刻みはじめます。初代判官島義勇、第 2 代判官岩村通俊の先見の明と、続く開拓次官(のち長官)黒田清隆のすぐれた指導力により、総顧問のホーレス・ケプロンをはじめ、多くの米国の先進技術・教育の専門家が招かれて、各分野の開拓事業が進められたのでした。

また北海道各地に開拓団の入植が進められ、開拓事業にも力を入れました。各地には、キリスト教の赤心社(明 14・浦河)、北光社(明 31・北見)などのような開拓団体の入植も多くありました。その中には、それぞれに教育や医療の面で、献身的な仕事をされた方があります。今回は、才色兼備の“荻野吟子”の数奇な人生にスポットを当ててみたいと思います。

### ■ 荻野 吟子の生い立ち

荻野吟子(1851-1913)は、1851 年(嘉永 4 年)3 月 3 日、埼玉県大里郡秦村大字俵瀬(現在熊谷市俵瀬)の豪農荻野綾三郎・嘉与の五女「ぎん」として生まれています。荻野家は、代々俵瀬村名主をつとめてきた家柄で、苗字帯刀も許されていたそうです。俵瀬利根川べりに、大きな長屋門を持つ豪壮な屋敷を構えていて、この長屋門は荻野家のシンボルであったようです。村人は、「長屋んち」と呼んで尊敬していたといいます。この俵瀬村は、北に流れる利根川には堤がなく南に中条堤があるため、洪水のたびに水が滞留し「水場」の村であったといわれます。

1850 年(万延元年) 隣村葛和田村大龍寺の寺子屋「行餘書院」で基礎学問を勉強。父は教育熱心でしたが、四男五女のなかでも、吟子は、幼い頃から聡明で勉強好きで、父が「女に要らぬ利発ぶり」と驚嘆するほどであったといわれます。やや長じて、幕末の著名な儒学者寺門静軒の「両宜塾」に学びます。吟子は、医師で、静軒の後継者松本萬年が埼玉県妻沼村に学舎を開くと、松本の娘荻江とともに萬年の教えを受けて、ほぼ経史百家の官学書に通じ、才媛と詠われたといえます。

1868 年(明治元年)、吟子 18 歳の年に、望まれるままに上川村の名主・稲村家の長男貫一郎(18 歳)に嫁ぎます。貫一郎は若くして名主役を務め、1884 年(明治 17 年)埼玉県議会副議長、後に銀行の創設・経営や牧畜牛乳販売の開業など、実業家としても大成した人でした。しかし、吟子との結婚生活は長くは続きませんでした。吟子は、結婚後間もなく不幸にも夫からうつされた性病により健康を失い、2 年後実家に帰され、1870 年(明治 3 年)には協議離婚となります。

その後、上京して順天堂病院に入院します。全治は困難なもの、病状は鎮静に向かい翌年にはようやく退院できるまでになったのです。吟子は、この病軀に加えて、男性医師による局所の診察と治療を受ける屈辱的な体験の中で、このような女性のためにも、自分が女医となる決意を固めたといわれます。再び郷里に戻り、幼時からの師松本萬年に就いて漢学の修養に努め、上京勉学の機会を待っていました。師松本萬年の長女荻江は、後に東京女子師範学校の教授ともなる才女で、学問好きの吟子と意気投合して義姉妹の契りを結んだということもあり、吟子はいよいよ学問の決意を固めて、1873年(明治6年)吟子22歳 周囲の反対を押し切って、閨秀画家奥原晴湖に伴われて上京します。吟子は、すぐに皇漢医で国学者としても著名であった井上頼圀の門に入り、学んで一年、抜群の才能と知的端麗な容貌により、才色兼備の評判を高くしたといわれます。

### ■ 上京、東京女子師範学校を卒業、さらに医学校へ

1874年(明治7年)夏、甲府に私塾を開いていた内藤満寿子の招きに応じて、教師として赴任します。翌年秋、東京女子師範学校が開校します。松本荻江は、教師となります。荻江の勧めを受けて、吟子は第1期生として入学します。すでに、和漢の学に通じている吟子は、ここでも異彩を放ち、明治12年、優秀な成績で卒業します。吟子の医学への強い決意を受けて、永井久一郎教授が、当時の医学界の有力者陸軍軍医監石黒忠直を紹介します。石黒の努力により、いくつかの私立医学校に照会するも、当時は、いずれも女性禁制でした。しかし、さらに石黒の紹介で、1879年(明治12年)9月、侍医高階経徳経営の医学校「好寿院」に入学することができました。本来女性禁制の医学校に3年間も通学するためには、大変な困難があったようです。その通学姿は男子用の袴に高下駄を履くという男装で、3年間、毎日一里の道を歩いて、学校通いと学資を得るために、良家の家庭2,3軒廻って教える家庭教師を続けるという苦闘の日々であったといわれます。

### ■ 日本最初の女性医師の誕生

1882年(明治15年)好寿院卒業。医術開業試験を受けようとするも、女性を理由に拒否される。以後2年ほど受験許可のため奔走しています。親戚もみな反対で、ただ一人姉の野口友子だけが援助し続けてくれたといえます。当時、吟子と同じように苦勞して勉強して、開業試験の願書を提出して却下されていた女性が他にも数人いたのです。吟子が、有名な実業家高島嘉右衛門(「高島易断」の著者)の家で家庭教師をしていた関係もあり、高島嘉右衛門一皇漢医井上頼圀に頼んで時の衛生局長長与専齋の紹介を得て、吟子は、何度も必死で懇願したのです。

1884年(明治17年)9月、まず前期試験(物理学・化学・解剖学・生理学)を受験します。この時の女性受験者4名(荻野吟子、木村秀子、松浦さと子、岡田すみ子)中、合格者は吟子一人でした。翌年1885年(明治18年)3月の後期試験(外科学・内科学・薬物学・眼科学・産科学・臨床実験)を受験して、吟子はみごとに合格したのです。(35歳)そして5月、本郷三組町に小さな家を借りて「荻野医院」を開業します。わが国女性医師第1号ということで、新聞や雑誌の報道もあり、大繁盛となります。

その後、下谷黒門町に移転して婦人科、小児科、外科を開業、患者は増える一方で開業医としての経営は順調に伸びていったといえます。吟子は心優しい温かい人柄であったといわれます。また女性医師の先覚者として、女医制度創設に果たした功績も大きなものでした。

1887年(明治20年)には、生沢クノ、高橋瑞子、本田詮子、1889年(明治22年)には、采沢房栄、深萱ひね、設楽りう、岡見京子(米国医大卒)、1890年(明治23年)には、間宮八重、村上いわお、1891年(明治24年)には、前田園子ら10名、1892年(明治25年)には吉岡弥生ら6名……続々と女医が誕生しています。女医志望の女子学生の多くが荻野医院に寄宿して世話になったといわれます。

吟子は、医院開業の前年にキリスト教の演説会の講話を聞いて強い感銘を受けて社会奉仕や婦人

運動に心を注ぐようになります。そして、1889年(明治22年)には、本郷教会で、有名な海老名弾正牧師から洗礼を受けて、キリスト教徒になっています。

当時、婦人運動の先覚者矢島楯子らによってキリスト教婦人矯風会が結成されて、女性の地位向上を目指して、婦人覚醒運動、婦人参政権運動、禁酒運動、廃娼運動などが活発になります。

吟子は、男性支配社会での女性の不当な扱いや、男から性病をうつされて病気の再発を繰り返していく多くの女性患者に接して、なんとかして社会を改善し、女性の自覚を高めなければならないと痛切に感じていたのです。それで吟子も、この矯風会創立に参加して、風俗部長になり、また大日本婦人衛生会幹事にも就任、さらに明治女学校の生理衛生担当教師・校医として活躍しています。

### ■ 無名青年との結婚、そして北海道へ

吟子が、輝かしい名声の中で仕事をしたのは、わが国女性医師第1号となった35歳から数年間でした。40歳の時から運命は大きく屈折していきます。吟子の前に、14歳年下の志方之善(しかたゆきよし)という青年が現れたのです。志方を吟子に紹介したのは、徳富蘇峰・蘆花兄弟の実姉大久保慎次郎夫人といわれます。

志方は、熊本県人。同志社大学に学び、新島襄より洗礼を受け、大久保慎次郎の助手として伝道活動をしていました。1890年(明治23年)夏季伝道のため秩父に赴き、その帰途下谷の荻野医院に1泊したのでした。この時の吟子と志方は、周囲も驚くほどに情熱的で、運命的な惹かれ方であったといわれます。40歳の吟子は、日本的な教養も高く、名実ともに完成された知的な女性でした、26歳の志方青年のひたむきな熱烈な思いを受けて、吟子は、長い年月の間男性不信に閉ざしていた心に、あきらめていた女の喜び、生まれてはじめての恋情を燃え立たせたのです。しかし、二人の結婚には、吟子側のすべての人が反対したのでした。年齢だけでなく、あまりにもいろいろ差があり過ぎるということで、紹介者の大久保夫妻も媒酌人を断り、海老名弾正牧師も反対したそうです。

それでも二人は、1890年(明治23年)11月25日、熊本県山鹿町の志方の生家で、ギューギ牧師のもとでキリスト教徒として結婚式を挙げています。

キリスト教は、1873年(明治6年)に禁制が解かれ、明治政府の欧化政策のもとに広まっていますが、信徒たちの間に北海道に理想郷を建設しようという動きが起こります。志方之善も同郷の先輩の助力によって、北海道(後志国瀬棚郡)の利別原野に二百町歩の貸付を受けます。そして結婚半年後、1891年(明治24年)には、協力者の丸山要次郎他10名とともに、この利別原野を理想郷(インマヌエル)にしようと北海道に渡り、開拓生活に入ります。その2年後に今村藤次郎、金森石郎ら15戸が入植して、市街地の設置を計画するなど、今日の今金の基礎を作ったのです。(明治30年瀬棚町から分村して「利別村」となり、昭和22年10月町制施行を機に開拓先駆者今村藤次郎・金森石郎の名前をとり「今金町」と改称しています。)

吟子は東京に残り、夫の理想実現のために資金援助をしていましたが、吟子も、之善の北海道に理想郷を建設しようというキリスト教精神に強く打たれて、いよいよ1894年(明治27年)6月明治女学校の諸職を辞して、6月インマヌエル村に入ります。

1896年(明治29年)、吟子渡道、インマヌエル(今金町神丘)に居住し、之善の姉シメの長女トミを養女として迎えます。しかし現実の原野開拓は、高い理想をもってしても厳しいものでした。冬の厳しさ、病気、ヒグマなど猛獣の被害、さらに利別川の水害などもあって、入植者は次第に減りだします。

### ■ 瀬棚で医院を開業、一時札幌へ、

結局は、之善も吟子も、1897年(明治30年)に、この今金の地を離れて瀬棚に移住します(吟子47歳)。瀬棚村で荻野医院を開業し、厳しい冬も苦勞しながら、遠く瀬棚全域の往診に出かけたといわれます。

また「瀬棚淑徳婦人会」を結成して、みずから会長となって活動の先頭に立ち、女性たちに包帯の巻き方を教えたり、東北地方の不作に義捐金を募集するなどの福祉活動を行い、並行して「瀬棚日曜学校」も開設し、子どもたちの復員伝道をするなど、明治41年瀬棚を離れるまで継続しています。

1903年(明治36年)夫之善は同志社大学へ再入学。6月吟子は、瀬棚の医院は借りたまま「一時休業」として養女トミを連れて一時札幌へ移住します。札幌には、かつて吟子が好寿院で学んだ時の内科学の助教師撫養太郎が、札幌区立病院長として赴任していたのでした。吟子は、「婦人科・小児科専門荻野吟子」と新聞広告を出すも開業はできなかったようです。8月になって、撫養に相談しますが、吟子の学んだ医術は二十年前のもので、新しい医術の知識がなくては札幌での開業は難しいといわれたようです。二十年前、優秀な医学生であった吟子には、撫養の言葉は残酷なものでした。失意の吟子は、翌年病氣となり熊谷の姉や友人の家で静養します。

### ■ 夫の死

1904年(明治37年)、之善は、同志社大学を卒業して、北海道に戻り浦河のキリスト教会の牧師として赴任します。翌年4月辞任して瀬棚へ戻りますが、9月23日、残念ながら開拓伝道の志半ばで病死しています。42歳でした。

### ■ 吟子東京へ、そして病死

1908年(明治41年)12月。吟子58歳。瀬棚を引き揚げて、東京本所区新小梅町で開業しましたが、以前のように、振るわなかったようです。1912年、志方籍を離れ、荻野姓に復籍分家となります。

1913年(大正2年)6月23日肋膜炎により永眠。62歳でした。それは奇しくも、吟子の女医志願の談話掲載の「日本女医会雑誌創刊号発行の時でした。

夫・之善は吟子の手によってインマヌエルの丘に埋葬されました、吟子は、親族によって東京雑司ヶ谷墓地に葬られ、永遠の眠りについています。

### ■ 荻野吟子を記念するもの

★埼玉県-さいたま輝き荻野吟子賞 ★熊谷市-熊谷市立荻野吟子記念館 ★北海道今金町-瀬棚郷土館 ★荻野吟子女子顕彰碑(1967年・昭和42年7月)北海道瀬棚町 ★荻野吟子女子顕彰碑(1968年・昭和43年4月27日)埼玉県妻沼町 ★史蹟 荻野吟子生誕之地碑(昭和47年2月25日)埼玉県妻沼町 ★1984年(昭和59年)公認女医誕生100年を記念して、「荻野吟子賞」(日本女医会)

### ■ あとがき

北海道各地方に入植した開拓者たちを大きく支えた教育・医療関係者のことを取り上げたいと考えていましたが、荻野吟子(1851～1913)と同じ時代には、十勝陸別町の開墾と医療に尽くした関寛斎(1830～1912)がいます。司馬遼太郎が「胡蝶の夢」街道を行く15北海道の諸道」に書いています。(執筆担当：中垣 正史)

#### <主な参考文献及び参考資料>

- 「北の命を抱きしめて―北海道女性医師のあゆみ」北海道女性医師史編纂刊行委員会 編集発行 ドメス出版 2006年
- 「ほっかいどう百年物語」STVラジオ編 中西出版 □ 人物近代女性史⑦「明治女性の知的情熱」講談社文庫
- 荻野吟子―日本の女医第1号― 奈良原 春作著 国書刊行会 □ 「札幌医療物語」さっぽろ文庫79 □ 「荻野 吟子」荻野吟子女史顕彰碑建設期成会編 瀬棚町発行 □ 「わたしのクワはこの聴診器―女医荻野吟子の物語―」(時計台ものがたり所収) 大西 泰久 作 新風舎発行 昭和42年12月 □ 「日本最初の女医にしてキリスト者―荻野吟子 栄光と苦悩の生涯」別冊太陽 日本のこころ―127 平凡社発行 □ 「荻野吟子の札幌での医院開業について」新札幌市史編集長 海保洋子 新札幌市史機関誌第「札幌の歴史」48号所収 □ 「日本最初の女医―荻野 吟子―不屈の精神と大いなる愛」荻野吟子没後100年記念事業 熊谷市・熊谷市教育委員会編集 □ 「明治の女性たち」島本久恵著 みすず書房 昭和45年8月 □ 「花埋み」渡辺淳一著 新潮文庫 □ 各地の現地リサーチ資料 □ インターネット資料など

# 平成 25 年度 第 2 回 国際交流ランチセミナー記録

## ～節分豆まき・異文化交流の昼食交流会～

日時 平成 26 年 2 月 2 日(日) 11 時 00 分～14 時 00 分

会場 KKR ホテル札幌 2F レストラン「マイヨール」(中央区区北 4 条西 5 丁目)

### (ゲスト)

魏 佳楠 gui jianan	(クイ チアナン)	北海学園大学留学生	(中国)	M
趙 浩然	(ジョ ホヨン)	北海学園大学留学生	(韓国)	M
Allen Paul Heffel	アレン ヘッフェル	札幌市在住	(アメリカ)	M
Randy Pittman	ランディ ピットマン	札幌大学留学生	(アメリカ)	F
Arto Tammenoksa	アルト タンメンオクサ	札幌大学留学生	(フィンランド)	M
Eleonora R. Pssener	エリナ ランセン セナー	札幌大学留学生	(フィンランド)	F
Lynne Harris	リン ハリス	札幌国際日本語学院	(アメリカ)	F
Michel Riselvato	マイケル リゾルバト	札幌国際日本語学院	(アメリカ)	M
Allen Feliciano	アレン フェリシアノ	札幌国際日本語学院	(アメリカ)	M
Lizeth Gonzalez Carabarin	リズ ゴンザレス カラバリン	北海道大学院留学生	(メキシコ)	F
Uma Habiba	ンマ ハビバ	北海道大学院留学生	(パングラティシュ)	F
Saiyka Subha	サイカ スブハ	北海道インターナショナルスクール	<娘 12 歳>	

概要: この国際交流ランチセミナーは、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。今回は、「節分豆まき」をテーマとして、多国籍のゲスト 15 名をお迎えしました。最初に、年男(年女)の方に豆まきをお願いして、各テーブルから鬼役の人を数名決めていただき、みんなで「福は内! 鬼は外!」と声をそろえて、悪鬼・邪気の追い出しをしました。

このセミナーは、今回で 36 回目です。参加者合計 33 名。(通訳は、会員の岩崎修子さんをお願いしました。) 今回も、大勢のゲストをお迎えしましたので、時間の関係もあり、簡単なスピーチの形となりました。

節分とは、旧暦立春の前日のことです。

節分は、季節の分かれ目の意味で、本来「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日を意味していました。この節分が、現在では特に、立春の前日である 2 月 3 日をさすようになりました。旧暦で、冬から春になる時期を 1 年の境目として、この日を大晦日と同じように考えるようになったのです。この日の夜、人々は炒った大豆を家の内外にまきながら、「鬼は外! 福は内!」と唱えます。その年の健康を祈るため、大豆を自分の年齢の数だけ食べるという習慣もあります。また、お寺や神社でも、大掛かりな豆まきが実施されます。

この節分に「豆まき」をするのは、中国から伝わった「追儺(ついな)」という厄払いに由来します。「追儺(ついな)」は、俗に「鬼やらい」「厄払い」「厄おとし」「厄神送り」とも呼ばれ、厄病などをもたらす悪い鬼を追い払う儀式で、わが国では、文武天皇 706 年(慶雲 3 年)に宮中で行われたのが最初とされます。

豆まきは、一般的に、炒った大豆で行われましたが、掃除が大変なこと・撒いた豆も食べられないことから、現在は、落花生(ピーナツ)などを用いるようになりました。魔除けのために、鯛の頭を終(ひいらぎ)の枝に刺して戸口に挿す風習もあり、また、巻き寿司を食べる風習もありました。

「恵方巻き」という巻き寿司を恵方に向かって丸かぶりするのは、福を巻き込む、縁を切らないという意味も込められているといわれます。もとは大阪船場の風習であったのが、マスコミに取り上げられて、今日では、全国的に有名になっています。

### **1 リン・ハリス (アメリカ・女性・札幌国際日本語学院)**

私は、リン・ハリスと申します。ワシントン州シアトルから参りました。アメリカの祭日には、建国記念日のお祝いがあります。毎年7月4日に大きな花火大会が開かれます。マサチューセッツ州ボストンでの花火大会は、今まで見た中で最高の花火大会でした。花火大会はたくさん見てきましたけれど、その中でも一番です。花火大会はおよそ3時間も続けられます。何千発もの花火が打ち上げられます。空中を埋め尽くすほどです。信じられないくらい音も大きいです。花火大会が終了すると、あたりは煙が充満して、顔の前にかざした手も見えないくらいです。(日本語で)「とても楽しかったです」

私は、日本が大好きです。帰国したとき、日本が懐かしくなると思います。4月に帰国予定です。こちらには1年の滞在でしたが、絶対札幌のことは忘れません。素晴らしい街でした。

### **2 ギ・カナン (中国・男性・北海学園大学留学生)**

(日本語スピーチ) 皆さん、こんにちは。ぼくは、ギ・カナンと申します。中国の内モンゴル出身です。中国の一番北のところですよ。砂漠がいっぱいあります。その辺にはいろいろなかわいい動物もいっぱいいます。馬とか、ラクダとか、羊とかです。ぼくは、今大学生です。日本に来て今年で3年目です。北海学園大学工学部で生命工学を勉強しています。難しいと思いますが、たぶん皆さんニュースで見たと思いますが、山中さんがiPS細胞を発見しました。他に一昨日、小保方さんの万能細胞のニュースもありましたが、それが今、ぼくが研究している分野です。その他、情報工学も勉強しています。コンピューターに関するいろんなプログラム作ることとかです。

1月31日は、中国の旧正月「春節」なのですが、でも残念ながらテストがありまして、中国へ戻れなかったです。それでも明日国へ戻ります。家族のみんなと一緒に旧正月を過ごしたいと思います。旧正月のとき、みんなは中国語で「ゴーニェンハオ」とお互いに言います。これを言うと、これから一年間みんな幸せになります。それでは私といっしょに言ってください。では「ゴーニェンハオ！」嬉しかったです。以上です。今日はありがとうございました。

### **3 リゼス・カラバリン (メキシコ・女性・北海道大学大学院留学生)**

皆さんこんにちは。私の名前はリズです。メキシコから来ました。まず最初に、お招きいただいたことにお礼を申し上げます。楽しんでおります。

札幌には2年ほど前に来ました。北大大学院で学んでいます。2年間の博士課程を終えたら来年帰国の予定です。日本で「節分」の行事に参加するのは初めてです。とても興味深いお祝いだと思います。メキシコでは、春にはこのような種類の行事はありませんが、メキシコでの大きなお祭りについてお話したいと思います。11月1日2日の、メキシコで一番有名な祝祭である「死者の日」を紹介したいと思います。この2日間、家に帰ると皆が集まり、今日のように大きなテーブルを用意して、皆の好物の食べ物をたくさん並べます。たとえば、私の亡くなった曾祖父はテキーラが大好きだったので、テキーラを用意します。そうすると死者の霊が夜の間訪ねてくると信じられています。またこのお祭りでは色とりどりの飾り付けをします。家も色とりどりの紙で飾りつけします。食べ物もたくさんあるし、子供のときからこのお祭りが大好きでした。家を訪れる人に見てもらえるようにきれいな花も飾ります。街中どの家もとてもきれいで、大好きなお祭りです。それで皆さんにご紹介しようと思ったのです。今日は、どうもありがとうございました。

### **4 ランディ・ピットマン (アメリカ・女性・札幌大学留学生)**

私は、アメリカのシカゴ出身のランディと申します。札幌大学に留学して4ヶ月ほどになります。

今年の夏には卒業する予定です。できれば英語教師として職を見つけて日本に住み続けたいと思っています。将来はフリーランスの翻訳家になりたいと思っています。

この時期にある米国の祭日としては、イースターがあります。宗教的な祭日ですが、クリスマスと同じように、信者でなくてもほとんどの家庭でお祝いします。私はそんなに信心深くはありませんが、やはりお祝いしました。この日には、子供たちがベッドに行く前に、卵にさまざまな色と模様を描きます。そして子供たちが眠ると、両親がその卵を家のあちこちに隠します。バスケットの中には小さなプレゼントやお菓子などをいれます。朝子供たちが起きると、卵やバスケットを探し回ります。「イースターバニー」(イースターのうさぎ)が訪れてこれらのものを隠すといわれています。そのあとは家族で集まり、一番いい服を着て、また子供たちは隠した卵を探し回ります。家族や友達と食事をしますが、一番良く食べられるのはウサギの形のチョコレートです。または「キャドバリー・エッグ」というキャラメル味の卵の形をしたチョコレートもあります。

今日はありがとうございました。

## **5 ジョ・ホヨン (韓国・男性・北海学園大学留学生)**

(日本語スピーチ) 皆様こんにちは。わたしの名前はジョ・ホヨンと申します。私は韓国(サウス・コリア)から来ました。ノース・コリア(北朝鮮)ではありません。北海学園大学で日本語を勉強するために、一年間留学しています。今回こういうようないい機会があって、ここに参加することができました。ここに参加して、英語もできたら良かったなと思っています。今度ランディさんに英語を教えてもらおうかと思っています。

さっき中国から来た方もおっしゃったんですけど、韓国も、1月31日が旧正月「ソルラル」でした。韓国最大の祝日です。この日韓国では、「セヘ ボン マニ パドゥセヨ」といいます。明けましておめでとうございます、という意味です。これを言ったらお互いに一年間幸せをいっぱいもらうようになります。中国も韓国も日本も似てるような文化なので、同じ言葉があると思います。みんなで言ってみましょうか。「セヘ ボン マニ パドゥセヨ」。ハイ、よくできました。ありがとうございます。以上です。

## **6 アレン・フェリシアノ (アメリカ・男性・札幌国際日本語学院)**

皆様こんにちは。アレンと申します。ワシントン州シアトルから参りました。シアトルには8年間住んでいますが、フィリピンのマニラで生まれ育ち、21歳まですんでいました。マニラに住んでいた年数のほうが長いので、フィリピンでのお祭りについてお話したいと思います。

この時期には、フィリピンには特に祝祭はありません。フィリピンでは2つの季節しかなく、暑い季節と、台風の季節の2つです。フィリピンには国民の祭日というものがあまり無いのですが、ほとんどが独立しているといいますが、それぞれの町でそれぞれの祭りが違う時期に祝われるという感じですが。私の町では、一年の始まり、1月21日のお祝いがあります。「コンフェッティ」といわれる、ピザの形のような、3角形のプラスチックで作られた飾りが街路の上に飾られます。そしてランチタイムには、全ての家で、主にお母さんたちが料理をします。それで町中に食べ物があふれます。町中の人々が、または他の町からやってきた人々が、さまざまな家を訪れ食事をごちそうになります。

午後にはスポーツフェスティバルが催され、小さな子供も大人も参加して、通常バスケットボールを午後の間中楽しめます。そして夜になると、夕食時にも食べ物が引き続きたくさん提供されます。そして夜は、バスケットボールのコートにライブ音楽を設置します。DJがいてライトも用意して、パーティを楽しみます。夜の間は皆お酒を飲みます。朝までです。これが、私がごく若いうちからお酒を飲むようになってしまった理由です。(笑い)もし皆様がフィリピンやシアトルに来るこ

とがありましたら、ぜひ私のうちによってください。食事を差し上げます。

### **7 マイケル・リゾルバト (アメリカ・男性・札幌国際日本語学院)**

皆様こんにちは。マイケルと申します。ワシントン州シアトルから参りました。米国ではこの時期には、ランディが紹介してくれたイースターはありますが、旧正月のお祭りにあたるものはありません。12月31日にはお祝いをして飲んでばかりいます。

札幌には去年、9月に参りまして大変ここを気に入っています。人も食べ物もいいですし、雪が好きでスノーボードも大好きです。今日はお招きいただき、ありがとうございました。

### **8 サイカ・スプハ (バングラディッシュ・女性・北海道インターナショナルスクール)**

皆様こんにちは。サイカと申します。札幌には6ヶ月滞在しています。バングラディッシュからまいりました。北海道に来たのはちょうど冬がはじまったころでした。私の国は熱帯にあるので、雪もないで、ちょっと驚いています。私は北海道インターナショナルスクールの中学生です。

今日は、私の国の新年のお祝いについてお話したいとおもいます。伝統的には私たちの国の新年は4月14日に始まります。その日は春の始まる日でもありますので、4月14日は春の色で埋め尽くされます。赤・オレンジ・黄色です。一年の始まりは普通に1月1日からとなっていますが、伝統的には一年の始まりは4月14日です。4月14日は国民の祝祭日で休日となり、私たちには嬉しい日です。普通はとても天気がよく一日中晴れます。おいしい食べ物を食べ、家族でお祝いして外出します。そして友達とお話したりして、幸せな時間を過ごし、一年の幸せを願って新しい年を始めます。

### **9 ウマ・ハビバ (バングラディッシュ・女性・北海道大学大学院留学生)**

皆様こんにちは。ウマ・ハビバと申します。ウマ、と呼んでください。バングラディッシュから参りました。インドの隣国の小さな国です。札幌には3年前に参りました。北海道大学大学院歯学研究院の博士課程で学んでいます。来年大学院を卒業して帰国する予定です。この2年間半というものの、娘を国に残してきたので寂しい思いをしていました。去年娘がここに来てくれて、今はとても幸せです。私の専門は口腔内の先天異常ですので、歯学研究院ではその方面の研究を進めています。

私の国の最大のお祭りのひとつについてお話したいと思います。「イード」(注：ラマダン明けの祭り)と呼ばれるお祭りで、これは、世界中のイスラム教の国々に同じお祭りがあります。イスラム教徒の国では必ずこのお祭りがありますので、わたしたちもこの日をお祝いします。このお祝いの前には、長い間、30日間のラマダン(断食)をします。日の出から日没まで何も食べませんし、飲みません。「イード」では、さまざまな沢山の料理を用意し、家族が集まり、新しい服をきて、大人は子供・いちばん年下のものにお金を上げます。とても楽しい賑やかなお祭りです。

バングラディッシュの人々はとてもフレンドリーです。おいしい食べ物もたくさんあります。主な食事はカレーとライスですが、とてもおいしく、またさまざまな種類の果物と野菜もあります。雪が降りませんので、一年中おいしい果物や野菜を栽培できるのです。土壌も肥沃です。

今日はお招きいただき、ありがとうございました。とても楽しんでおります。

### **10 アルト・タンメンオクサ (フィンランド・男性・札幌大学留学生)**

フィンランドから来ましたアルト・タンメンオクサと申します。でも私の苗字は長くて難しいので、アルトと呼んでください。フィンランドのお祭りについて、私はあまり詳しくありません。それで、フィンランドの祝祭についてお話するかわりに、札幌の印象について話したいと思います。

札幌には9月に参りました。札幌に来る前に多くの場所を旅行してきましたので、札幌を他の場所と比較することができます。札幌は天候が過ごしやすく、フィンランドほど寒くもなく、また香港ほど暑くもありません。また日常生活もとても便利だと思います。私の住んでいたフィンランド

の小さな町と比べても便利で、欲しい食材もすぐに手に入ります。日本の文化や生活にだんだん慣れてきて、日本の「緑茶」や「かりんとう」が大好きになりました。今日は、ありがとうございました。

#### **11 アレン・ヘッフェル (アメリカ・男性・札幌市在住英語講師)**

皆さまこんにちは。またお会いできて嬉しいです。アレンと申します。札幌で英語教師として働いています。札幌で暮らし始めて5年目になりますが、こちらの生活・食べ物・季節・全て気に入っています。

米国には2月に春のお祭りはありませんが、でもバレンタインデーがあります。たぶん日本のとは大きな違いがあると思います。子供の頃は、小学校でバレンタインデーのキャンデーやカードをクラス全員に用意しました。それから大きなものを先生用に。皆が楽しむという感じです。大人はバレンタインのお菓子やカード、ジュエリーなどを恋人にあげます。日本のように、バレンタインデーに女性が男性にチョコレートをあげ、男性はホワイトデーにお返しをするという習慣はありません。それから同僚にバレンタインのプレゼント(義理チョコ)をあげることもありません。こちらでは、どれくらいの量のチョコレートを皆さんが買っているのかと、興味深く思っています。

今日はお招きいただき、ありがとうございました。

#### **12 エリナ・セナー (フィンランド・女性・札幌大学留学生)**

皆様こんにちは。エリナ・セナーと申します。札幌大学で交換留学生として学んでいます。フィンランドのラップランド大学で国際関係について勉強していました。フィンランドの冬のカーニバルについてお話したいと思います。2月に行われます。どの日かわかりませんが、通常日曜日と火曜日に行われます。ラスキアイネン (laskiainen) と呼ばれています。冬のスポーツをしたり、そりに乗ったりスキーをしたりします。特に子供のためのお祝いの日です。この日には特別の食べ物、豆のスープやラスキアイスプツラというお菓子を食べます。伝統的にはそりに乗ることにより、その年の豊作を招く、という意味合いがあります。でも、最近では単に楽しみのためにそりすべりをしています。今日は、ありがとうございました。



HOMAS International Exchange Luncheon 2014/2/2

# 寄稿 マサチューセッツ州における文化財保存の現場をたずねて

—北海道開拓記念館北方文化共同研究事業 2013 年度マサチューセッツ州調査報告—

北海道開拓記念館学芸第一課学芸員 杉山 智昭

## 1. はじめに

アメリカ北東部に位置するマサチューセッツ州は先住民であるアメリカン・インディアン、ヨーロッパ・アフリカ大陸などから渡来した人々によって織りなされてきた歴史が今もそこかしこに息づいている土地です。繰り広げられてきた交流・あつれき・協働のドラマの一端を物語るものとして、この地域には貴重な文化遺産が数多くのこされ、人々によって守り継がれてきました。また、モース、フェノロサ、ビゲローらに代表されるコレクターによって収集された世界有数の日本関連コレクションを有する博物館・美術館があることで有名です。この度、わたしは北海道開拓記念館の保存科学担当学芸員として「マサチューセッツ州内の文化施設等における資料保存・管理の現状」について調査する機会に恵まれました（期間：2014年1月20日～27日、調査地：ボストン市およびセーラム市）。具体的な調査内容につきましては以下のとおりです。

- ① 文化財の保存管理・修復の体制および手法に関する調査
- ② 文化財の保存修復に関する展示・教育普及活動についての調査
- ③ 博物館が所蔵する日本（東アジア）関連コレクションの保存状態の現地調査
- ④ 博物館等の文化施設における保存科学研究の位置づけおよびマネジメント
- ⑤ 歴史的建築物（家屋、船舶、工場群）の保存（劣化）・管理状況についての調査

限られた時間ではありましたが、今回の調査では、各訪問先の多大なるご厚意によって、通常目にふれることのないコレクションの収蔵施設や修復スタジオ、研究室の視察が特別に許可され、現場担当者と密度の高い情報・意見交換を行うことができました。これらの中から、本稿では、①と②に関連する調査についてボストン美術館を例に結果の一部をご紹介します。

## 2. ボストン美術館における文化財の保存管理・修復活動および社会への情報発信

この度の調査に出発する前、わたしは自らが抱えるとともに、日本国内の他館の学芸員からの聞き取りによって浮かび上がっていた、いくつかの問題について訪問先担当者と意見交換をすべく事前の準備をしていました。その中の1つに、少し堅い言い回しになるのですが「資料の受入導線」の問題があります。この「資料の受入導線」とは、寄贈や購入、他館との借用・貸出、研究利用などにもなって、一時的にでも館外にあったコレクションを安全に館内に招き入れるための空間やルート、手順、環境管理基準を定めたものです。この決まりごとがしっかりしていないと、展示室や収蔵庫にある館内の所蔵コレクションが外部から持ち込まれた要因（かびや虫、汚染物質）によって大きく劣化し、外部から持ち込まれたコレクションについても、好ましくない急激な環境変化にさらされる危険性があります。

ボストン美術館をはじめ、今回聞き取り調査を行った施設では、地域特有の環境条件による設定の違いはあるにしても、資料の受入導線についての基本的考え方は日本国内と同一線上にあることがわかりました（地震が少ない土地柄ですので耐震対策は今後の課題ということですが）。しかしながら、受入導線の「運用」については、大きく異なっていて、日本国内における資料保存システムの改善を考える上で、大変示唆に富むものでした。まず、資料を館内外に出し入れする権限は「学芸員」にはなく、「コレクションマネージャー」、「レジスタラー」、「コンサバター」といった資料の保存や登録管理に責任をもつ専門職が管轄することになっています。また、検疫室や収蔵庫に入室す

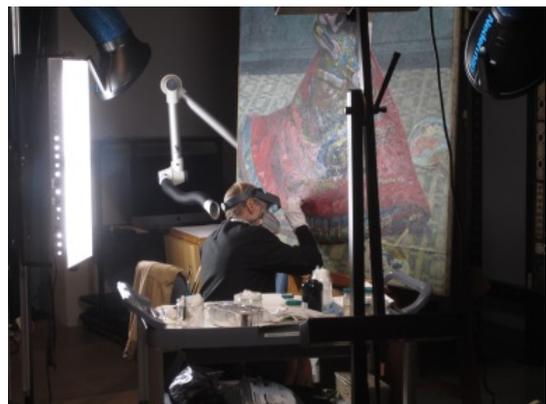
る権限も上記の専門職とその資料に直接関わる必要のある学芸員、警備員のみと与えられ、学芸員であってもセキュリティでロックされた領域に入ることにはできません（与えられた権限自体についても段階的に制限されています）。これは学芸員であれば誰でも「入室簿への記帳」などで、容易に全ての収蔵室にアクセスできてしまうこともある日本の状況とは確実に一線を画したシステムです。したがって、収蔵環境や収蔵庫の空きを考えず（たとえ空きがあったとしても）、学芸員が上記専門職の事前調査・承諾なしに寄贈などを受け、資料を急に「自身もしくは同僚との判断で」、「とりあえず館に持ってきて後付けで処理をする」ということは制度・倫理上はもちろん、物理的に不可能となっています。これは一見、厳しいようにも思えますが、既にある収蔵コレクションを守っていくためにも必要な運用であり、当地ではごく当然のことと認識させているのが印象的でした。また、コレクションの展示期間や修復方針については学芸員とコレクションマネージャー、コンサバター間の協議によって決められますが、最終的には資料保存の立場が優先されるとのことです。

以上のことは一般市民が博物館や美術館に求めている社会的役割と直接関係しているものと考えられます。公的資金を受けず、寄付や入場料収入によって運営されている私立博物館であっても資料保存に大きな予算がつけられ、それが当然の状況であるという認識、コレクションが寄贈された際に保存の予算も同時に寄付される事例などは「文化財を良好な状態で未来に引き継いでいきたい」という保存に対する一般市民の確固とした支持を示すものに他なりません。

一方、博物館・美術館の側でもコレクションの保存管理が行われているバックヤードの様子を紹介する展示や、公開型のスタジオにおける修復作業の実演などを通じて保存管理・修復活動の重要性を来館者へ広くアナウンスする活動に余念がありません。このような双方向性のある成熟した関係にも当地の博物館・美術館運営の歴史に関する「一日の長」を強く感じ取ることができました。

### 3. おわりに

現在、日本には多数の博物館・美術館があります。しかし、そこに専門職として配置されるのは学芸員のみというところが大半です。今回の調査でこのような組織構成は「文化財を良好なカタチで未来に残していく」という目標に取り組む上で、少し「いびつ」な状況ではないかとの認識を再確認することとなりました。今まさに、わたしたちは「ハコモノ」に学芸員のセットメニューから抜けだし、コレクションを所蔵する文化施設にはどのような組織および権限のバランスが必要なのかを根本から問い直していかなければならない時期にきているのではないのでしょうか。



ポストン美術館 修復スタジオの様子(左: 東洋絵画部門、右: 西洋絵画部門)

## ～七飯町姉妹交流訪問団がコンコードへ～

七飯町の海外交流研修は今年度で 19 回目を迎え、10月1日～10月11日までの11日間、コンコード町に、総勢14名(中学生5名、高校生3名、引率教員1名、一般町民3名、役場職員2名)で訪問してまいりました。

現地では、全員がホームステイ体験をさせていただき、米国の文化や習慣を学びながら七飯町の魅力を紹介していただくなど、姉妹都市交流の目的を十二分に達成してまいりました。生徒たちは七飯高校の姉妹校であるコンコードカーライル高校において、一緒に授業に参加し、また、ラジオ局での生出演など多くの経験をしました。さらには「若草物語」の舞台となったオーチャードハウスや、アメリカ独立戦争発祥の地であるオールドノースブリッジ、ハーバード大学など世界最高峰の大学の校内見学など、普通の観光ではできない貴重な体験をさせていただきました。将来を担う若者たちが自分の目や耳で直接体験することは、計り知れない良い経験であり、生涯において大変貴重な財産になったことと思います。一般町民代表の参加につきましては、東日本大震災以降、町民の防災意識が高まる中で、消防団員の役割が以前にも増して重要視されていることから消防団員を派遣。現地の消防署などで、日本との類似点や違いなど、直接意見交換を交わし学んでもらうことを主眼に実施しました引率教員におかれましても、現地の小学校で日本の小学校の年中行事を紹介するなど積極的に交流していただきました。今後も両町民の交流を通じ、より一層の友好関係を続けてまいりたいと思います



ボストンローガン空港到着

若草物語の舞台となった  
「オーチャードハウス」前にて

## ～ 第9代七飯町国際交流員 ベンジャミン・ロバート・ヘイドックさんが着任～

2011年7月末に七飯町に赴任。2013年8月までの2年間、七飯町ALT(外国語指導助手)として教育委員会に勤務し、同年9月より七飯町総務課に移り、国際交流員として着任しました。(コード町出身・24歳)

地元コンコードカーライル高校を卒業後、メイン州コルビー大学へ進学。子どものころから日本に興味を持ち、大学では日本語を副専攻。七飯の印象は、「自然に囲まれた住み心地の良い町。親切な人も多く、美味しい食べ物もたくさんあり、コンビニなどの定員の対応や笑顔が素晴らしい」と話しています。趣味はノルディックスキー、バスケットボールなどで、特技はピアノ。昨年11月に函館で行われた日本語スピーチ発表会では、



来日して間もないころにJRで迷子になり、利用客に助けられたエピソードを話し、来場者の投票で決まる会場賞に選ばれるなど、日本語の勉強も一生懸命頑張っています。

現在は、一般町民に英会話を教えたり、地元七飯高校英語部での交流、保育所での園児との交流、また、新たに国際交流員出前講座も開催し、地域団体の研修などで姉妹都市コンコードを紹介するなど精力的に活動しています。将来の夢は、日本語と英語を使い国際ビジネス系の仕事に関りたいと意気込を語っておられます。ベンさんの任期は今年8月末までで、今後も英会話講座の講師やさまざまな国際交流活動に参加し、多くの町民の方と交流をしていきます。

## 事務局短 信

### マサチューセッツDAYの開催・・・2月6日～7日、道庁ロビーにて

北海道は、1990年(平成2年)2月7日に米国マサチューセッツ州と姉妹提携をして、訪問団交流や交流事業を継続してきました。そして、1993年(平成5年)8月に滝川市とスプリングフィールド市とが、さらに1997年(平成9年)11月には七飯町とコンコード町とが、それぞれ姉妹提携を結び、非常に熱い交流活動が継続されています。

去る2月6日(木)～7日(金)の2日間、「マサチューセッツDAY」が、道庁国際課主催。北海道・マサチューセッツ協会、北海道国際交流協力総合センター共催で、はじめて企画実施されました。参加者約250名。

会場：本庁舎1階ロビー交流広場・展示スペース

内容：①マサチューセッツ州紹介資料のパネル展示・DVD映像(各種パンフレット無料配布) マサチューセッツ州の概要や北海道及び市町村団体(滝川市・七飯町)との交流を紹介。

②マサチューセッツ州セミナー <2月6日(木)12:15～12:45>  
講師：七飯町CIR(国際交流員・コンコード町出身)  
ベンジャミン・R・ヘイドックさん(パワーポイント提示)



パネル展示コーナー



ベンさんのレクチャー風景

### 平成26年度 理事会・総会及びミニギャラリー予定について

平成26年4月22日(火)午後、KKRホテル札幌3階会議室「エルム」で、新年度理事会(14:00～)・総会(15:10～)を開催します。理事会・総会は、前年度事業報告・一般会計決算報告、新年度事業計画・一般会計予算案・姉妹提携25周年事業案、新年度役員選出などを議題とします。

また、今回のミニギャラリーは、新見亜矢子さんの絵画展です。新見さんは、2000年(平成12年)姉妹提携10周年記念全道学生美術展最優秀賞入選。その後創作、展覧会活動を継続。現在、札幌市立米里中学校教諭(美術)をしています。入賞作品「オオカミ」他、素晴らしい作品数点を展示予定です。

### 平成26年度 イベント・交流事業の予定について

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| ・ 4月16日(水)～19日(土) | コンコードカーライル高校生グループ来札   |
| ・ 6月21日(土)～ 2週間   | ノーブルズ高校生交換留学プログラム来札   |
| ・ 6月29日(日)        | 第1回国際交流ランチセミナー        |
| ・ 8月31日(日)        | 室蘭・伊達歴史探訪コース(1日バスツアー) |
| ・ 10月26日(日)       | 第2回国際交流ランチセミナー        |
| ・ 3月1日(日)         | 第3回国際交流ランチセミナー(未確定)   |



## 北海学園大学

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

[大学院]

- 経済学研究科 / 経済政策専攻
- 経営学研究科 / 経営学専攻
- 法学研究科 / 法律学専攻・政治学専攻
- 文学研究科 / 日本文化専攻・英米文化専攻
- 工学研究科 / 建設工学専攻・電子情報工学専攻
- 法務研究科 / 法務専攻  
(法科大学院)

[大学]

- 経済学部(1部・2部) / 経済学科・地域経済学科
- 経営学部(1部) / 経営学科・経営情報学科  
(2部) / 経営学科
- 法学部(1部・2部) / 法律学科・政治学科
- 人文学部(1部・2部) / 日本文化学科・英米文化学科
- 工学部(1部) / 社会環境工学科・建築学科・  
電子情報工学科

## 北海商科大学

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

[大学院]

- 商学研究科 / ビジネス専攻

[大学]

- 商学部 / 商学科・観光産業学科

## 北海高等学校

HOKKAI HIGH SCHOOL

- 普通科 / 特別進学コース・進学コース

## 北海学園札幌高等学校

HOKKAI-GAKUEN SAPPORO HIGH SCHOOL

- 普通科 / 特進コース・進学コース

# 学校法人北海学園

理事長 森本正夫

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL(011)841-1161(代表) <http://www.hokkai-t-u.ac.jp>